

令和6年度

教科書調査研究報告書

中学校

国語

富士地区教科用図書採択連絡協議会
富士地区教科書研究委員会

I 調査研究対象教科書

| 発行者 | 書名 | 学年 |
|-----------|-------------|------|
| 2 東京書籍 | 新編 新しい国語 | 1～3年 |
| 15 三省堂 | 現代の国語 | 1～3年 |
| 17 教育出版 | 伝え合う言葉 中学国語 | 1～3年 |
| 38 光村図書出版 | 国語 | 1～3年 |

II 調査研究の観点

1 内容

- (1) 社会生活における様々な場面で生きて働く「知識・技能」を習得したり、「思考力・判断力・表現力」を養ったりできるよう、配慮されているか。
- (2) 国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するために、言語活動にはどのような工夫がされているか。
- (3) 教科等横断的な視点を踏まえた内容が取り上げられているか。

2 組織・配列・分量

- (1) 身に付けた知識・技能を活用しながら言語活動に取り組むために、教材の配列や構成、分量にはどのような工夫がされているか。
- (2) 生徒一人一人が主体的に言語能力を身に付けていくために、教材の配列や構成には、どのような工夫がされているか。

3 生徒の発達の段階への配慮

- (1) 生徒の発達の段階や生活体験、興味・関心に応じるために、教材はどのような配慮や工夫がされているか。
- (2) 表記、用語、挿絵、図表等は正確・適切・鮮明であり、生徒の発達の段階にはどのような配慮や工夫がされているか。

別紙様式 2

| | |
|-----|-----|
| 種目名 | 国 語 |
|-----|-----|

| 発行者 番号 | 教科書名 | 調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮) |
|-----------|-------|--|
| 略 称 | | |
| 2 東京書籍 | 新しい国語 | <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・韻文の作り方や技法について、資料集を用いなくても、教科書のみで指導ができるくらい内容が充実している。 ・文法のコンテンツにおいて、教科書自体の内容だけではなく QR コードの添付資料が生徒の個別学習において有用そうである。教科書を用いて授業を行い、その確認をタブレット PC にて家庭学習できるので、国語の学習のリズムを整えやすいといえる。 ・紹介されている作家の情報が令和に活躍している人が多く、生徒たちにとって教科書を身近に感じやすい特徴がある。 ・読み物のページにおいて、本文だけにクローズアップしているものと、読み深めるためにコンパクトではあるが資料を掲載してあるページがあり、発行者の学習者や指導者への配慮が伝わってくる。 ・どの教材にもデジタル資料で「作者の紹介」や「筆者の言葉」等がついており、作品の背景に迫ることができる。 ・新出漢字一覧に載せられている用例は、意味や使い方も分かるようなものになっている。漢字をただ書くのではなく、使えるようになる学習ができる。 ・1年生の古典では「伊曾保物語」を取り上げている。生徒にとって読みやすく、古典作品におもしろみを感じられる作品である。また、二次元コードにて他の章段も気軽にのぞくことができる工夫もされている。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来を考えるための9つのテーマ」が設定されており、自分や社会の課題に向き合えるようになっている。学年末には「未来への扉」が設けられており、1年間の総まとめの教材として活用できる。 ・「未来への扉」「未来へ向かって」として、情報社会や安全・防災など9つのテーマで作品が載せられており、1年間で学んできたことを生かしながら、今後の自分や未来を意識し、視野を広げるような内容となっている。 |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p><児童の発達段階への配慮（表現）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学作品の挿絵が具体的な場面を描いており、生徒の想像力を補助する役割になっているが、生徒の思考の幅を狭めてしまう反面もある。 ・独自に教科書用の書体を開発し、生徒が読みやすく、教師も指導しやすくなるような配慮がされている。 ・「読むこと」はオレンジ、「話す聞く」は青など、領域ごとにページの色が決められていて、領域を意識しやすい。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野において、分量や質は発達段階に応じた妥当なものであるといえる。そこから、学びを定着させようとする配慮が感じられる。 ・「未来への扉」という項目を設定し、1年生では「多様性と共生社会」、2年生では「地球環境と人間社会」、3年生では「国際社会と私たち」など、教科書を用いて言葉を学びながら、世の中とつなげていこうとする発行者のテーマ設定がなされている。 |
|--|--|---|

別紙様式 2

| | |
|-----|-----|
| 種目名 | 国 語 |
|-----|-----|

| 発行者 番号 略 称 | 教科書名 | 調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮) |
|------------------|-------|--|
| 15 三省堂 | 現代の国語 | <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元の始まる前に「読み方を学ぼう」のコーナーがあり、生徒が個別に学ぶために有用である。学び方について言語情報だけではなく、挿絵やグラフなども併用されているので、視覚的にも要点を捉えやすい配慮がなされている。また、短い教材で基本を学んでから本教材に入れるのがよい。1年間の学びの見通しがインデックス調に示され、明確になっている。 どの学年にも、巻末に「読み方を学ぼう 一覧」が掲載されており、3年間の学びの連続性や系統性を確認しながら学ぶことができる。また、二次元コードによる「読み方」解説動画もあり、生徒の個別の学びが補助される。 二次元コードを使って漢字の「読み」「書き」や「文法」の確認ができる。デジタルコンテンツでそれぞれの問題が用意されており、タブレットを用いて家庭学習を行う上で有用である。 スピーチの動画が、学びたいテーマごとに分けられており、主体的な学びにつながる。 資料編は、現在資料集で扱っている原稿用紙の使い方や作文の書き方、学習用語辞典なども掲載されており、充実した内容である。 「線は僕を描く」において、本文と挿絵の漫画のバランスが新たな学びを予感させる。メディアミックス自体は真新しいことではないが、生徒たちにとっては視覚的にも興味を引く新たなコンテンツであることは間違いないだろう。 「思考の方法」の見開きで、思考ツールの使い方も紹介されている。多くの情報を整理して自分の表現に活用していく力を伸ばすことができる。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の教科書から、全学年に生徒たちに人気のアーティストの歌詞が掲載されるようになった。教科書における詩の授業に、新たな視点を盛り込んでいる。 随筆や説明文などの単元に、「書く」や「話す聞く」ことが関連付けられた配列なので、学んだことを言語活動に関連付けることができる。また、後半には資料をまとめて記載してあるので、学習者が自身に必要な知識を必要に応じて検索することができる。 情報に関する教材が、「解説」→「論説・図表」の順に各学年に位置づけられており、多様な情報を関連付けながら現代社会の課題 |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>について考えを深めることができ、情報リテラシーも育つ。</p> <p><児童の発達段階への配慮（表現）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての発行者の中で、非言語情報である挿絵に関して突出した力の入れ方が伝わってくる。特に中1の教科書は、小学校6年生からの連携を意識しているようで、挿絵が贅沢に用いられている。また、起用されている作家の画風も新しいものであり、発行者が令和に生きる生徒たちを前提に作成していることがうかがえる。 ・1年生の「読み方を学ぼう1」の説明文の基本構造を学ぶ単元では、ペンギンの大きな写真で興味を引くとともに、文章を見開きで載せることにより、ページをめくることなく一目で構成を確認することができる。また、接続語やナンバリングなどポイントとなる部分がカラーで強調されているため、分かりやすい。その後、「クジラの飲み水」に入るため、学習の見通しが立ちやすい。 ・全体が学年ごとのテーマカラーで統一されている。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「言葉」に関して、生徒たちが社会人として活躍していく際に必要となる実用的な内容が多い。文学作品・論説文など従来の「国語」学習の土台となる読み物において、現代の作品がよく取り入れられている。言葉に関する学びとしては、メールの書き方、引用の仕方、簡単な文学史など適度な資料が載せられているので資料集がなくてもよい。そのため、この教科書だけ用いる場合においても、必要十分な国語の授業を展開させられる。 |
|--|--|--|

別紙様式2

| | |
|-----|----|
| 種目名 | 国語 |
|-----|----|

| 発行者 番号 略称 | 教科書名 | 調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮) |
|-----------------|----------------|--|
| 17 教育出版 | 伝え合う言葉 中学国語 | <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的にページに記載されている内容がシンプルであり、学習者にとって余分な情報がないので集中できるレイアウトになっている。とはいえ、思考を深めていくために使えそうな補助的な情報は、各単元の始まる前と終わった後に配置されており、学習者にも授業者が習熟度によってアレンジを加えていく面でも配慮が行き届いている構成であり、他の発行者と一線を画す特徴をもっているといえよう。 ・「学びナビ」が系統的に計画されており、その単元のポイントのみが把握しやすい。教科書をもとに学習の流れを生徒と共有でき、生徒自身が見通しをもって学習を進めることができる。 ・2年生「構成を明確にして説明文を書く」において、これまで説明文について読み取ることを中心に学んできた生徒たちが、説明文を実際に書く活動に取り組むことで、わかったつもりでいた説明文の構成についての本当の理解度が確認できる良い単元である。説明できて初めて本当にわかったと言えるので、このコンテンツは良いと考える。 ・思考力・表現力・判断力を問う問題を個人で作成することはなかなか難しいが、「学びのチャレンジ」で実用的な資料やグラフを活用した質問のページがあり、これから必要とされる力を身に付けることができる。 ・古典文学の「まなびリンク」は、歴史的仮名遣いなど基本的な内容についての説明がどの学年にも入っている。また、作品についての現代語訳や資料・問題が入っており、予習や復習をしたい生徒が主体的に学べるようになっている。 ・2年生の古典作品において、平家物語では「敦盛の最期」を取り上げている。他者では「扇の的」を取り上げる傾向にあるが、そこから読み取れる武士の生きざまは武芸に秀でた者であることだけだ。しかし、「敦盛の最期」では、気高く武士としての誇りを貫いて命を落とした敦盛と、手柄を挙げて名誉を得たかった直実が、相手を思いやり逃がそうと葛藤する人間模様を取り上げているので、文学的な面だけではなく、武士として生きた人々の思いを対比して読み取ることができる。 |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者に比べると挿絵が少ないため、生徒が自由な思考をできるようになっている。特に1年の「少年の日の思い出」では、少年の挿絵がなく、イメージの固定化がされなくてよい。 ・挿絵で描かれている女子生徒がスラックスをはいており、現代社会の求める多様性を踏まえた、人権上の配慮がなされている。 ・他者に比べて、行間や余白に余裕があり、見やすい。 ・「この教材で学ぶ漢字」の区分に、熟語が載っており、活用方法を学ぶことができる。 <p><児童の発達段階への配慮（表現）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要最小限の挿絵が、学習者の思考を妨げないという効果を発揮する。 ・3年生の「私」は内容や表現に抽象的なものが多く、高等教育へのつながりを意識できる単元である。デジタル化が進む世において、生徒たちが自分をどう定義していくのか扱う内容を考えることは、これから先の実生活に目を向けるという点でも大変意味がある。読み込みが困難だからこそ、扱う価値の大きい単元であると言える。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者に比べ唯一、本文と読むための手引きである「学びナビ」が分けて書かれている。この配慮が授業者にとっても生徒にとっても大きな意味がある。他者はタイトルの下に読み取っていくための視点が書かれてしまっているため、生徒が読む前に不必要な先入観を持ちやすい恐れがある。 ・SDGsや多様性の内容にふれるなど、富士地区の目指す教育に適している。 |
|--|--|---|

別紙様式 2

| | |
|-----|-----|
| 種目名 | 国 語 |
|-----|-----|

| 発行者 番号 | 教科書名 | 調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮) |
|------------|------|--|
| 略 称 | | |
| 38 光村図書 | 国語 | <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げられている読み物は、扱いやすいものが多い。特に文学作品の選択は熟考されており、名作に加え、現代を代表する作家の書き下ろしなど、読み応えのある作品が多い。 ・「話す・聞く」「書く」の「学びのカギ」のページには、1年間の学習の流れがインデックス風に載せられている。1年間の学びの見通しを持つことができると同時に、その単元で押さえるべきことがはっきりするため、系統立てて指導することができる。 ・二次元コードにより、必然性のある場面でICT機器の活用場面や可視化の方法、話型などが紹介されており実生活に生かせるように工夫されている。 ・巻末に「語彙ブック」がある。また、どの学年も韻文の創作のあとに「語彙を豊かに」というページがあり、生徒が思いや考えをより豊かな言葉で表現することをねらっている。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一冊当たりの厚さは薄いですが堅牢につくられている。 ・「学びへの扉」に授業のモデルプランが記載されている。授業者や生徒自身に考えさせたいことではあるが、この記載をメリットと捉えるか、デメリットと捉えるかで使い勝手に差が出てくるだろう。 ・似たような作品を意図して並べて配置することで、ただ精読するのではなく、比較を通して生徒が主体的に論理の展開や構成などをはじめとする課題を見つける工夫がされている。 ・「学びの地図」「思考の地図」「学びのカギ」「学びへの扉」など、様々な補助資料が充実している。内容が充実しすぎているが故に、生徒の思考に寄り添いすぎてしまうと広がりすぎてしまうので、授業の際に焦点化を心掛ける必要がある。 ・1年生の初めに「言葉に出会うために」のページがあり、音読や発表の仕方、ノートを取り方など、中学生の国語の授業を受ける上で意識したいことを確認し、意識させることができる。 |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p><児童の発達段階への配慮（表現）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の単元では、デジタル資料が充実しており、副教材がなくても理解の定着につながる。 ・各教材の最後に「学びへの扉」があることで、生徒たちが学びの見通しをもって、効率的に学ぶことができる。 ・学習上の配慮を施した自社開発のフォントが使用されており、画数や点画の付き方で迷わないようにできている。 ・図表が、色に頼ることなく、線の種類や濃淡で識別できるように工夫されている。 ・各学年、「語彙ブック」によって発達段階に適した言語表現がまとめられており、生徒が自分の思いや考えを言葉で表現するのに役立つ。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとのバランスが良く、偏りが無い。また、教科書に記載されている通りに進めていっても、配置が工夫されているので、国語力を高めるために一般化されていて扱いやすい。 ・「学びのカギ」で多様なジャンルの文章の読み方を押さえ、各教材の巻末にある「学びへの扉」で、その教材を通して読み方の定着を図るような構成となっている。 |
|--|--|---|